

11月オープン

臨床宗教師が駐在

大垣市の
沼口医院

ホスピス型共同住宅



喫茶室で「アミターバ」の今後を語り合う沼口
院長（左から3人目）、金田住職、鈴木教授ら

臨床宗教師駐在のホスピス型共同住宅「アミターバ」が11月11日に岐阜県大垣市の沼口医院でオープンする。真宗大谷

派の僧侶でもある沼口院長は「新しい宗教の在り方を発信する拠点に」と話している。

施設は同医院の隣接地に建設された。鉄骨造り2階建て、延べ床面積約991平方メートル。入居者の居室18室や食堂、浴室などの共用設備を備える。看護・介護スタッフの他、臨床宗教師も駐在して入居者のケアに当たるのが特徴で、1階には東日本大震災後に宮城県栗原市・曹洞宗大通大寺の金田諦應住職が始めた移動傾聴喫茶「カフェ・デ・モンク」のスペース（喫茶室）も設けられる。

沼口医院の患者で、独

居や老老介護などの事情で希望しても終末期を自宅で迎えられない人や、介護施設では受け入れがけない疾病を抱えている人などが入居対象者。

同医院では在宅医療にも取り組んでいるが、そうした「医療・福祉制度のはざま」に置かれた患者への対応が課題だった。

沼口医院は東北大が開設する臨床宗教師養成プログラムを受講生の実習

先でもあり、沼口院長が「アミターバ」の構想を温めてきた。

18日の竣工式には地元
の医療関係者の他、金田住職や臨床宗教師養成プログラムに関わる東北大の鈴木岩弓教授らも駆け付けて今後の活動展開への期待を語った。

沼口院長は「一般の人は宗教者に話を聞いてほしい」と思っているが、どう接してよいのか分からない。宗教者も社会の中でどう活動すればよいのか分からない。そうした社会的ニーズのずれを踏まえつつ、今までにないものをお互いに見つけていくことができれば」と語った。

沼口医院に勤務する臨床宗教師の田中至道氏によると、「カフェ・デ・モンク」は週に3回程度開く予定。入居者や家族の他、地域住民にも開放するイベントを毎月開くことも計画しているという。（池田圭）